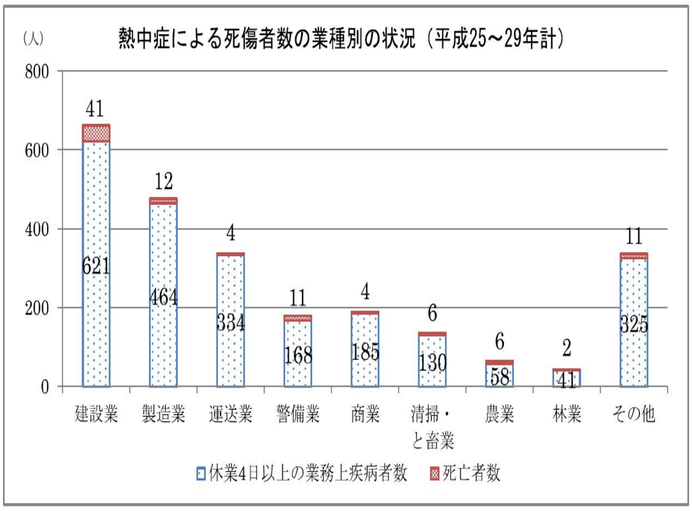
第3号　アンゼン新聞　平成30年8月1日

安全委員会

発行　株式会社M.T.C

メンバー：前田、原、森實、松村、勝山、川村

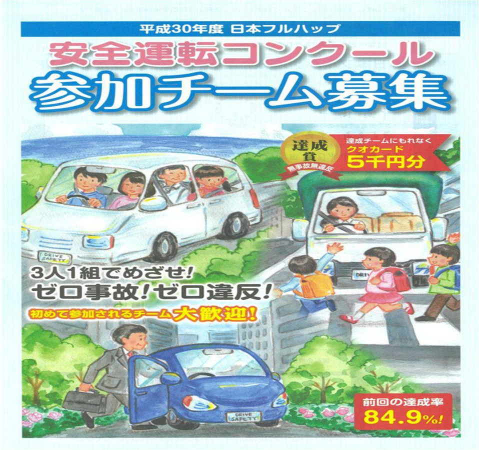
熱中症対策



誰しもがなり得る熱中症

毎年、夏の時期に我々製造業界でも熱中症の話題がよくでますが、今年の７月、８月にかけ猛暑日（気温３５°以上）の毎日が続くようです。報道などでも取り上げられていますが、全国で７月に入り１週間の間で約１万人もの方が熱中症の疑いにより救急搬送されているようです。その中でも製造業の職場での熱中症にかかられている割合が２割を占めているようで、全国で最も報告例が多い職業が建設業となっております。一般的に熱中症の対策として、こまめな水分補給を取ることが大事だと言われていますが、最近では水分補給だけでなく塩分やミネラルの不足も問題になっているようで、他にも不規則な生活習慣や食生活までもが熱中症になりえる問題に繋がるようです。普段から規則正しく睡眠を取り、暑さで体力が奪われないよう食事をしっかり取るといった事も熱中症対策のいっかんとされています。熱中症報告人数は毎年約５００人ずつ増加の傾向を示しており、死亡報告なども上がっている中、自分は大丈夫だ。などの過信は本当に危険な考えになりえます。誰しもがなりえるものだと認識し、それに対して対策を取る事も安全に繋がるのではないかと考えております。

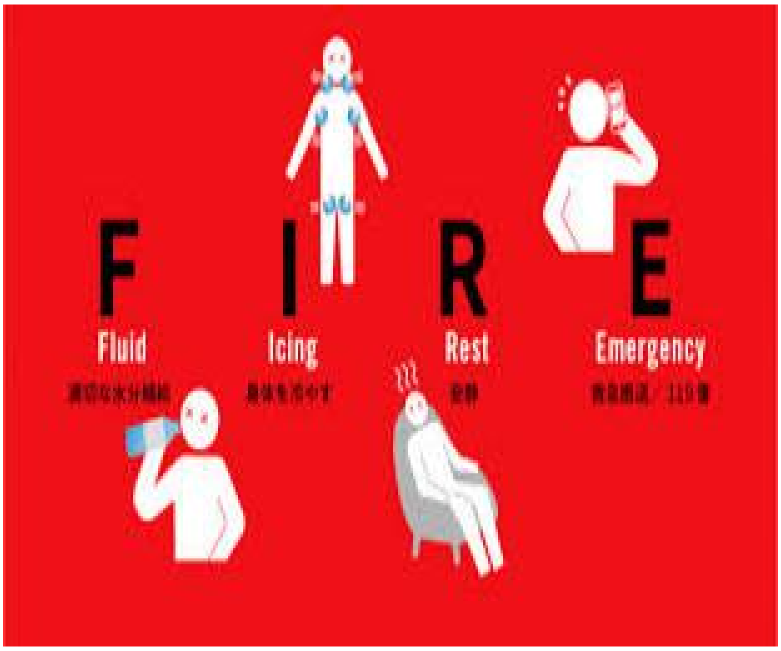
安全運転コンクール


平成30年度 日本フルハップ
安全運転コンクール
参加チーム募集
達成賞
達成チームにもれなく
クオカード
5千円分
3人1組でめざせ!
ゼロ事故!ゼロ違反!
初めて参加されるチーム大歓迎!
前回の達成率
84.9%!
DRIVE SAFETY

日本フルハップさんから安全運転コンクールと言う事業活動が行われており、内容としては３人１グループで半年間、無事故無違反をめざすといった活動です。今年は弊社従業員の中から３名、８月１日より参加しております。来年の２月までの間安全な運転を心がけ、目標達成を目指して頂きたいと思います。

もしもの時の応急処置

もし熱中症の症状かと思われた時の応急処置で大切な３つのポイントがあります


F
I
R
E
Fluid
Icing
Rest
Emergency

①涼しい場所へ移動しましょう。まずはエアコンの効いた部屋や車内に移動する。野外の場合は日陰に移動する。②洋服を脱がし、体を冷やして体温を下げましょう。主に首筋や脇、足の付け根などを冷やしましょう。③塩分や水分を補給しましょう。できれば２つを一度に補給できる、スポーツ飲料が最適でしょう。